

目的 布の重ね合わせ状態における剛軟性とドレープ性の関係について、JIS法のドレープ係数を用い検討して来た。その結果表地、裏地を組み合わせた場合の剛軟度及び重量とドレープ性の大きさが明らかとなった。そこで今回は実際のスカートまで展開させてドレープ性との関係について検討を試みた。

方法 試料は前回と同様表地：綿・ウール、裏地：キュプラを用いサーキュラー型フレアスカートに近似させた試料を作製し、表地裏地の方向性を一致させて重ね合わせシルエット測定機により各高さにおける横断面形状を求めた。シルエット測定装置は、円筒支持台(21cmφ)上に試料をセットし、円筒を軸回転させながら中心から布表面までの距離をタッチセンサーで水平移動させて測定するものである。また支持台：試料の大きさの比は1:4~1:7まで変化させて測定した。

結果 各部位での断面形状、断面積の変化が明らかとなった。このことにより、スカートの裾付近でのドレープ性は、支持台：試料比の大きい試料、すなわち試料長が長くなる程、剛軟度・重量に関係なく布の重ね合わせの試料差がなくなる傾向を持つことがわかった。

- 文献 1) 吉田・田中・小林；日本家政学会オ33回総会研究発表要旨集 P178  
2) 吉田・小林；織消学会 昭57年年次大会要旨集 P34~37(1982)